

メトロポリスの裏庭で

—香港島のジャングルトレッキング—



もう一段上の山道からみる香港島と九龍半島

「香港」という言葉を聞いて、多くのひとが思い浮かべるのは、アジアでも有数の経済都市というイメージである。つねに喧騒が渦巻く街には、高層ビルが林立し、突きでた看板の下には、さまざまな人種が行き交う。いまこの瞬間にも、巨額のカネや取引が動き、コンテナが積み下ろされ、あらゆる情報が交錯する。中国と世界をむすぶゲートウェイ、それが香港である。しかし、すさまじい勢いで高速回転する街のすぐ裏には、驚くほどの自然が残されていることを、訪れる多くのひとは想像もしないであろう。

香港の中心である香港島、オフィス・商業地区の湾仔（ワンチャイ）にJETROの香港事務所がある。そのビルの裏玄関があるケネディ・ロードを徒歩二分、小さな散歩道がある。だが、この散歩道を歩きはじめると、最初に「ちょっととした覚悟」が必要である。なぜならば、およそ二〇度の斜面を五分ほど登り続けなければならない。そう、オフィスの裏側には、すでに緑深き、そして斜面の急な山が広がっている。舗装されているとはいえ、かなりの運動である。歩きはじめて五分。すでに一面の緑が広がりはじめ。亜熱帯独特の植物の数々。カン高い鳥の鳴き声が聞こえはじめ、かたわらの斜面をサーッと流れる水の音が心地よい。途中、山沿いの中腹を走るポーウェン・ロードに出る。起伏のない道は、山の中腹に住むひとたちが、ゆったりとした散歩やジョギングを楽しむものにはびつたりである。だが、目指すのここではない。

「けもの道」の入口



道の途中からみえる JETRO オフィス



意外と水量の豊富な沢



いよいよ道なき道に

さらに上である。さらに歩き続ける。斜面は相変わらず急である。道以外は完全に、緑の深い亜熱帯のジャングルとなってゆく。斜面の先に、そろそろ道の終わりがみえてくる。ビクトリア・ピークにつながってゆく、山の尾根を走るスタップス・ロードである。だが、ぼくはそこには興味がない。冒険心を刺激するのは、その手前の小さな滝のよこにある、細い不思議な「けもの道」なのである。一応は道になっているのだが、地図上をよくみると、それは心細いばかりの線で描かれている。そこが「オイデオイデ」と呼ぶのである。表道よりも裏道・横道に入りたがる悪いクセ。ぼくの人生も同じである。もつとも、そこにはつねに、好奇心を刺激する「何か」がある。いざ、探検に出発しよう。

「けもの道」を歩きはじめて五分。JETROのオフィスが真正面にみえた。写真でもわかるように、白い円筒形に王冠がのったようなビルである。この頂上が六四階である。ちなみに、このビルは斜面に立っており、地上一階の正面玄関とは別に、先ほど出てきた裏玄関が、地上一二階の部分にある。つまり単純計算ではあるが、ぼくはオフィスのあるビルを出てから、二〇分強で約五〇階分を登ったことになる。なんだか不思議な光景である。

さらに歩を進めると、また不思議なものに出会う。森深き「けもの道」のなかに、カラフルなビニールシートで覆われたゴミ捨て場のようなものがある。正直、みるからにアヤシい雰囲気をかもしだしている。



石造りの貯水場

なかに何があるのかといえば、大きな鏡とペットボトルの山が並べられて放置されている。この地形をよくみると、風水にまつわる祠（ほくら）のようなものであることがわかる。前面に海、後背に山があり、位置的には絶好。おそらく街のなかに住む誰かが、自分の運気を上げるため、勝手につくったのであろう。

さらに前進する。小さな滝と沢があらわ



Dutch Path の看板

れる。思いのほか豊富な水量である。道はいよいよジャングルの趣が強くなっていく。すると前面に「危険」を知らせる赤い看板がある。よくみれば、数年前の大雨のときに大きな地滑りを起こして、二つ下の道路にあるマンションに押しよせたとのこと。道はかろうじてつながっているの、そのまま前に。だが、途中で草木がさえずり、道も部分的に崩落しているので、飛び越え



岩に美しく生えた亜熱帯の苔

ねばならない。まるで『地獄の黙示録』の雰囲気である。

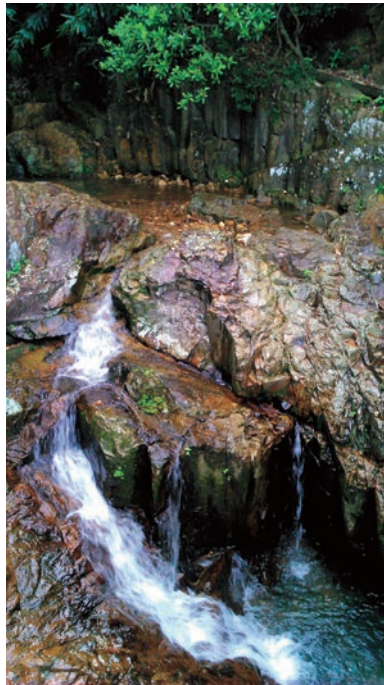
さらに進むと「けもの道」は、その先と下につづく二手にわかれている。とつぜん簡易舗装された道路が出現し、目の前に公園が現れた。一九六〇年代に建てられた貯水場の上に建つ公園である。入口には「Dutch Path」と書かれた立て看板がある。説明をみれば、一九世紀末から二〇世紀半

ひさすえ りょういち

アジア近代経済史が専門。証券会社勤務の後、2004年東京大学大学院にて博士号(学術)取得。東京大学、政策研究大学院大学を経て、2011年よりアジア経済研究所。2014年から香港に派遣。



香港島の別トレッキングルートにある太平洋戦争時のトーチカ



香港島の別のトレッキングルートある滝



珍客の大蛇(長さ1メートル)にご用心

ばまで、オランダ汽船会社の社員たちは寮のある山の中腹から、毎日この道を通って叉路の下に抜け、徒歩で中心街のオフィスに通っていたとのこと。イギリス人は中国人にかつがせたカゴに乗っていたが、勤儉

第一のオランダ気質かと妙に感心する。こうしておよそ一時間半、摩天楼の大会が眼下に広がりつつも、深い緑に覆われたジャングルを踏破したこの日の探検は、無事終了したのであった。



香港島の別トレッキングルートからみる絶景の夕日